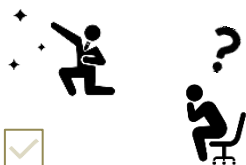


安心して参加できる授業の工夫 理解を助ける配慮

たとえば、言葉だけの説明にならないよう、視覚情報を活用したのに、次のような子どもの姿を目にすることはないか、振り返ってみましょう。



ある
 視覚資料をたくさん提示したのに、関心を示さない。



先生が視覚情報を活用しているのに、なぜかつまずく。

こんな姿も

この姿が生まれる理由を「子どもの視点」から掘り下げてみましょう。

その子の学びにとって必要な情報が資料の中に含まれていましたか？

つまずいた子どもは視覚処理よりも聴覚処理が優位なのではありませんか？

こんな理由も

「子どもの視点」に立って、自分の実践を見直してみましょう。

[Blank area for reflection]

「子どもの視点」に立って見直した内容を交流してみましょう。

(たとえば、こんな問いかけで対話を深めていきましょう)

- ・「子どもの視点」に立って実践を見直したら、〇〇先生はどんな気づきがありましたか？
- ・「子どもの視点」から掘り下げて考えたら、こんな問題に気付いたのですが、〇〇先生だったらどう考えますか？



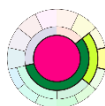
メモ

[Large grid area for notes]

試みたいこと

「理解を助ける配慮」という着眼点で「子どもの視点」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

(研修実施日 年 月 日 氏名)



長野県教員育成指標との関連

「理解を助ける配慮」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の(現代的な諸課題への対応) ⑬〈インクルーシブな教育〉に関連しています。